



信州の方言“ズラ”の 今昔物語

方言は場所によることばの違いです。そのような場所による違いを視覚化する方言地図（言語地図）を使って研究するのが言語地理学です。

長野県では推量（「～だろう」）を表すのにズラが用いられます。ズラはどのように使われるのでしょうか。また、どこで使われているのでしょうか。そして、それはどのように成立したのでしょうか。また、ズラは将来どうなるのでしょうか。

このようなことについて、方言地図を使いながらお話ししたいと思います。



講師：大西 拓一郎 氏（おおにし たくいちろう）

国立国語研究所教授。1963年、大阪府出身。東北大学大学院修了。専門は言語地理学で言語変化と方言形成・市民科学史を研究。著書は『ことばの地理学』（2016年、大修館書店）、『方言はなぜ存在するのか』（2023年、大修館書店）、「信州諏訪における市民科学としての言語地理学—牛山初男、土川正男、浅川清栄—」『方言の研究』10（2024年）。2009年に長野県茅野市に移住。趣味は天体観測（特に変光星）。

開催日：令和8年9月26日（土）

時間：14:00～16:00（開場13:30）

**場所：北部交流センター（えんてらす）
1階 101・102会議室**

定員：80人（先着順）

申込み方法：右のコードまたは電話（0263-52-0305）

※ 本の販売・サイン会あり

参加費無料



（ながの電子申請サービス）

お問合せ：北部交流センター ☎0263-52-0305（平日9:00～16:30）